

---

Forget-me-not

巽

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

Forget - me - not

### 【コード】

N1414B

### 【作者名】

巽

### 【あらすじ】

ある雨の日、灰原哀は河原に咲くわすれなぐさから、黒の組織にいた時のことを思い出してしまふ。

## 1、プロローグ（前書き）

この話は「黒の組織との再開」での、灰原さんとジンの関係とは？  
について書いていこうと思います。オリキャラとのからみがあるの  
で、苦手な人はご注意ください。

## 1、プロローグ

もし、あのとき彼の誘いに乗ったりしなかったら…

Forget - me - not

く勿忘草の咲くころにく

その日は朝から雨が降り続き、哀が少年探偵団の面々と学校から帰る頃には、近くの川はすっかり水位が上がっていて、哀は少し寂しい気持ちで家に帰ることになった。

3

ふとした拍子に、河原の土手で見つけた勿忘草わすれなぐさを、学校からの帰りに愛でることが、最近の哀の日課だった。

「どうしたんだ？灰原」

突然話しかけられて、自分はもしかしたらひどく間抜けな顔をしていたかもしれない、と哀は思った。声をかけてきた本人はなかなか

答えない哀に不振そうな顔向けている。

勿忘草を見ていると、彼を思い出す。

工藤新一は彼にどこか似ている、と哀は思う。容姿というより、雰囲気。だからだろうか、こうして優しくされると…

「あら、私は別に何でもないけど。それより、あなたはどうなの？  
工藤君。探偵事務所の彼女、そろそろ寂しがつてるんじゃない？」  
「なっ！？そんなのオメーに関係ねーだろっ。ったく、本当かわいくねーよな。」

「あら、そうかしら。一応お褒めの言葉として受け取っておくわ。」

ほら、また素っ気なく答えてしまった。

きっと神妙な顔つきで考えごとをしていた自分を心配してくれたのだ。工藤君は優しいひとだから。

工藤君はへそを曲げてしまったのか、それっきり話しかけては来なかったが、私にとっては好都合だった。だってこんな日はあの頃の

ことを思い出してしまうから…そう、私が黒の組織という巨大な檻に閉じ込められていたときのことを…

## 1、プロローグ（後書き）

初めての小説ですが、いかがだったでしょうか？次からはいよいよ  
哀ちゃんの回想篇なので、楽しみにしててください。

## 2、出会い（前書き）

哀ちゃんの回想です。オリキャラが登場します。

## 2、出会い

その日の午後、哀は組織の研究所の一階にあるカフェテラスにいた。今日は午前中に仕事での取引相手と会って、それから例の薬IAP T X I 製作のための材料を仕入れ、そのあとは人体実験に立ち会った。

研究所では自分の担当している薬の人体実験には必ず立ち会うことになっている。

しかし、研究している薬にもよるが、この手の実験では死人がでることもしなくなかった。

そのため哀は気分がわるいといって、午後からの仕事を休んでいたのだ。

冷めたコーヒーを飲みながら、哀は先ほどの人体実験で犠牲になった人間について考えていた。

見たところまだ二十歳にもなっていない少年だった。

何故組織に目を付けられたのかわからないが、薬の作用で30分以上のた打ちまわって結局薬には死ねなかった。

私は何故こんなことをしているの？私は人を殺したいんじゃない、私なんて…

そのとき、不意に目の前が暗くなった。

気になって顔を上げる前に上から声が降ってきた。

「そんな暗い顔してどうしたの？かわいいお嬢さん？」

なに、こいつ。まさかナンパしてるつもり？

そう思うと酷く腹が立って、哀は無言で立ち去ろうとした。

しかし、相手はそんな哀の行動を見越して哀の目の前に立つと、まあまあ良いじゃないつと無理やり哀を席に戻してしまった。

仕方なく哀は席に戻って相手の向かい側に座った。

哀は最初、この不愉快な相手に完全無視を決め込むことにしていた。しかし、相手はそんなことはお構いなしに話を進めていく。

そのとき、ちゃんと聞いていなかった哀の耳に絶対聞こえるはずのない言葉が聞こえてきた。

「それじゃあ、まずは自己紹介からかな。僕は第三営業部の貝塚幸人<sup>と</sup>。よろしくな、第一研究部の…いや、Deserted cats 研究部の灰原哀さん。」

Deserted cats…それは哀が所属している黒の組織の名前だった。

## 2、出会い（後書き）

なんか、黒の組織に勝手に名前つけちゃいました。因みに意味は「捨て猫たち」です（＾o＾；）

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1414b/>

---

Forget-me-not

2010年10月30日05時12分発行